

教育目標: ○ゆたかな心で じょうぶな子 ○自らよく考えて やりぬく子 ◎みんなで 協力しあえる子(重点項目)

目指す学校像: 1心が響き合う学校 2学ぶ喜びがあふれる学校 3力がみなぎる学校 4互いに結ばれている学校

目指す児童・生徒像: 1よく考え伸びようとする子 2心優しく支え合おうとする子 3すすんで心身をきたえようとする子

目指す教師像: 1自らを高めるとともに、互いに高め合う教職員 2教育論をもち、児童の育ちを語る教職員 3確かな人権意識をもつ教職員 4経営参画意識をもつ教職員 5教育公務員としての自覚をもつ教職員 6学校・地域を愛せる教職員

領域	中期目標	短期目標	具体的方策	努力指標 (中間)	努力指標 (最終)	成果指標 (中間)	成果指標 (最終)	分析コメント	改善策
豊かな人間性の育成	人権教育の充実 道徳教育の充実 生活指導の充実 体験的活動、表現や鑑賞活動の充実	全教育活動を通して、いじめ防止教育の充実に努め、命を大切にし、互いの人権を尊重し合う態度を育てる。	「いじめ防止基本方針」に則り、年間を通じていじめ防止教育を徹底し、いじめの兆候を見逃さず、一人ひとりの児童理解に基づいた指導の充実を図る。	4		4		日常的な児童理解と少しの変化も見逃さない姿勢で対応にあたっている。いじめは許されるものではないことは、折に触れて伝えていく必要がある。	道徳や特活でのいじめ防止教育を更に充実させ、引き続き「いじめアンケート」や「こころのポスト」を活用しながらいじめの未然防止・早期発見に努める。また、報告・連絡・相談を迅速に行い、組織的対応を心掛ける。
		基本的な生活習慣の確立を図り、自分自身で自他の安全に配慮して行動しようとする態度を育てる。	「返事・あいさつ・後始末」を合言葉に、生活指導を徹底する。「四小生活スタンダード」を改善、指導の充実を図る。	3		3		四小スタンダードに基づく基本的な生活習慣の確立に向け継続的に指導を行っているが、一部児童は成果を実感できていない。振り返りや声掛けを通じて、児童の意識を向上させる必要がある。	基本的生活習慣の確立に向け、教職員が連携し、指導する。また、あいさつ運動など児童が自主的な行動を促す仕組みづくりを更に進めていく。
確かな学力の定着	基礎的・基本的事項の徹底 授業の充実を図るための授業改善 読書活動・プログラミング教育の推進	児童一人ひとりに「分かる、できる、使える」を実感させ、きめ細かく、根気強く基礎学力の定着を図る。	授業のねらいを明確にし、一人ひとりの児童が基礎・基本を確実に身に付けることができる授業を構築し、児童の自己肯定感を育てる。	3		3		個別最適な学びや自由進度学習をすすめる中で、児童の主体性や自己肯定感が育まれている。教師側の見取りと個に応じた指導を充実させ、学力向上を目指していく必要がある。	授業のねらいを明確にし、児童が見通しをもち学び方や学ぶ場を選択しながら学習を進めていく環境を確保する。児童の学びを支える教員としての役割をより明確化し、見取りとフィードバックをしながら基礎学力の定着を図る。
		自ら学び、自ら考える活動の日常化を図る。	一人ひとりの学習習熟度を的確に把握し、朝学習やICTも効果的に活用するなどして、確かな学力の定着を図る。	3		3		デジタルの活用をととして、児童が主体的に操作・活用する場面が増えてきている。読書習慣の定着は個人差が見られる。	デジタルの効果的な活用により、児童の理解度を把握し、適宜個別の支援を行うことで、自ら学び、考える活動の充実を更に目指していく。朝学習を全学級で行い、確かな学力の定着を目指す。読書時間の確保と環境整備を進めていく。
たくましい心身の育成	健康教育の積極的な推進 体育活動の日常実践を推進 安全教育の推進	食育を計画的に実施し、食への関心を高める。	給食指導や会食会を通して、食や健康に関心をもち、よりよい生活を送ろうとする態度を育てる。	3		3		給食指導や体験活動、栄養士との連携を通して、食や健康への関心が高まりつつあるが、残渣が多い傾向にある。	給食委員会の児童からの発信や日々の給食指導や体験活動を通して食への関心が高まっている。今後は適量配膳や声掛けを工夫し、残渣の減少を図りつつ、個別の配慮を講じながら自分自身の健康に興味をもたせていく。
		体育指導の充実を図る。	「遊ぶ、かかわる、高める」を合言葉に、自ら体力を高める児童の育成に取り組む。自他の安全に目を向け、自ら危機を回避し、行動できる資質や能力を育む。	3		4		体育や休み時間の活動を通して、体力向上と安全意識の定着を図った。継続した取組、日常的な取組につながる活動の工夫が必要である。	運動が楽しいと思えるよう、教師の声掛けや場の確保を行う。体育の授業は体を動かすことを目的とするだけでなく、思考し、協働して高め合うことも意識した活動となるよう意識させる。
学校・家庭・地域の連携強化	特色ある教育活動の充実	「国分寺学」として地域に親しみ、学び、貢献する授業を推進する。	「国分寺学」として、史跡等の地域環境や地域人材を活用した、地域に親しみ、地域に学び、地域に貢献する授業を推進する。	3		3		地域人材や環境を活用した探究活動を通して、児童が国分寺への関心や愛着を深める学びを系統的に行っている。活動ありきとならぬよう、ねらいを明確にしてい必要がある。	地域人材や資源を更に活用し、児童が地域に貢献したいと思えるような体験的な活動を継続・発展させていく。
	家庭・地域との連携及び協働を推進	コミュニティ・スクールとして、家庭・地域と連携して児童を育てていくとともに教員の働き方改革の一環としての取組も充実を図る。	第四中学校区コミュニティ・スクールを通して、児童の教育活動及び地域活動の充実を図る。	2		3		地域人材と連携した取り組みは増やしているが、小中連携やCSとの協働は十分に行えず、活動の広がり課題が残った。	地域人材や資源を有効活用し、児童が地域に触れる活動を増やすことで、地域に貢献しようとする態度を育てていく。そのためには地域学校協働本部を機能化させ、体制を整えていく必要がある。